

相模だより

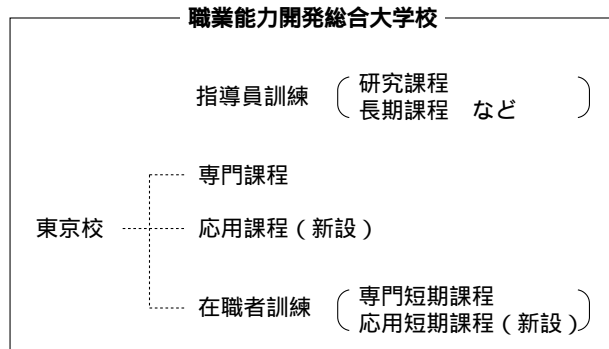
能開総合大のうごき

「職業能力開発総合大学校」 新設

職業能力開発促進法及び雇用促進事業団法の一部改正（平成9年5月9日法律第45号）により、職業能力開発大学校（神奈川県相模原市）と東京職業能力開発短期大学校（東京都小平市）が統合され、名称も新たに職業能力開発総合大学校として平成11年4月新たに設置されました。



相模原にあるキャンパス



応用課程、応用短期課程は、平成11年4月から開設された新職業能力開発大学校でも新設されました。

職業能力開発総合大学校では、従来職業能力開発大学校で実施してきた職業訓練指導員養成のための研究課程、長期課程などと東京職業能力開発短期大学校で実施してきた専門課程、専門短期課程に加え、より高度な実践技術者を養成する応用課程、在職者等を対象に職業に必要な高度で専門的かつ応用的な技能・知識を付与する応用短期課程とその職業訓練指導員を養成する応用研究課程



小山労働政務次官のご祝辞

を新設し、人材を育成することとされました。

また 調査研究およびそれらの成果の情報提供等、開発途上国の職業訓練指導員に対する研修を行います。

先ごろその第1期生の入学式が両キャンパスにおいて執り行われましたが、相模原にあるキャンパスでも長期課程、研究課程および専門課程の合同入学式が小山労働政務次官、七瀬事業団理事長等ご臨席のもと、4月7日執り行われました。

式典会場は入学の喜びとこれから始まる新しい生活への期待に胸をふくらませた新入学生たちの熱気に包まれていました。



熱気に包まれる式典場



新入生代表による宣誓

応用課程担当指導員研修 閉講

平成11年4月より新能開大等に開設される応用課程を担当する予定の指導員を対象とした「応用課程担当指導員研修」が、昨年から約1年間にわたって行われました。

すでにこの4月から本校（小平のキャンパス）をはじめ、近畿、九州および沖縄の各新能開大で応用課程を担当していますが、さる2月26日には同研修の閉講式が本校相模原のキャンパスにおいて執り行われました。

当日は、角野総務・人事担当理事等の臨席のもと、同研修生に早川校長から1人ひとりへ修了証書が手渡されました。同理事および雇用労中央執行委員長から祝辞をいただいたあと、研修生を代表して坂本リーダーから「約1年間にわたる研修は終わったが、今後は産業界に修了生を送り出して初めてこの課程が成功となる。4月から始まるこの課程をぜひ成功させたい」と強い決意が語られました。



長期間の指導員研修を終えて



閉講式にのぞむ研修生のみなさん

国費外国人留学生 日本語研修発表会

昨年11月に本校長期課程へ来日した国費外国人留学生（第7期）10名は、半年間に及ぶ日本語研修を無事終えて、この4月からは長期課程1年次生として相模原のキャンパスで学習を続ける毎日です。



大勢のみなさんが集まった会場



日本語研修の成果を披露する留学生

さる3月26日にはそれまでの日本語研修の成果を披露するために「日本語研修発表会」が同キャンパスで開催されました。研修修了時に留学生は日本語能力試験で3級の実力を持ちますが、来日直後よりさらに上達した日本語でさまざまなテーマがしっかりと口調で語られ、会場にいた教職員は留学生たちの上達の早さに感心していました。一方、教職員にとっても日本の文化や社会について異なった見方や考え方に接することもでき、貴重な時間となったようでした。

初めに触れたように今後は4月から始まった長期課程での専門の知識や技術・技能の習得にも多くの力を注がなければならず、当分は大変な時間が続きます。とはいえ、先輩たちも慣れない日本での生活のなかで日本語の習得と勉学を両立させながら卒業していったように、彼らにもその努力を期待したいところです。